

真資本主義研究会

代表: 検討中(7月初旬に決定予定)

1. 研究目的

資本主義のあり方を根本から問い直す研究活動

新資本主義 or 真資本主義を標榜して、経済志向の資本主義から Karl Polanyi や宇沢弘文が指摘していたような「人類の幸せのための経済学」のあり方を問う。経済学(者)の系譜をたどり最新科学技術の急速な発展による社会構造の変革をベースに、新たな資本主義の正しいあり方を導き出す。現在、政府が推進している「新資本主義」に歩調を合わせて、国への提言を行う。

2. 発足の背景・活動方針等

背景: 従来の経済学(者)の世界は歪なものといえる。

- 主要経済学者の誕生は 1770 年代~1950 年代(AI も IoT も無い時代の学問)。
- 元々経済学は大航海時代(15~17C)と、それ以降の植民地主義の時代の賜物。
- 経済学の根底として自国(先進国)に有利に働き、途上国の環境や社会問題に与しない仕組み。地球環境への配慮はまったく成されてこなかった。
- その時々の政権と密接な関係にあつて、自国優先が顕著であつた。

想定されるメンバー

- 当初は発起人を中心にコアメンバーを決めた上で、学会内外から研究員を募る。
- 実務者や他領域の専門家を一般募集する。(実務家を始め興味を持つ Z 世代)
- Free Rider は固くお断り。

3. 活動計画

- 2022 年: ・学会内有志の勉強会(月1回程度)で、研究メンバーの充実、研究会の進め方、研究目標など詳細を検討。経済専門家諸氏、同種研究会との Collaboration。
・ユニークな研究会として社会に発信し、Cloud Fund や各種研究資金の提供を得る。
- 2023 年: ・学会研究発表大会で、広く社会に研究概要と成果を発表する。
・政府に対してコンスタントに提言を行う。

4. 研究会メンバー募集の考え方

- 社会経済学者、実務者、経済・金融研究者を中心とし、参加者には役割を明確に割り当てる。
- 参加における唯一の条件は、ご自身の研究の一環として取り組める方で、聴講生は不可。
- 新陳代謝できる仕組みを内在させ、若くて有能な方々を育て、活躍しやすい環境を整えて行く。

参加希望の方は、①氏名、②所属、③連絡先(メールアドレス、電話番号)、④取り組みたい研究テーマを記載し、環境経営学会事務局(smf@smf.gr.jp)までご連絡ください。